

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 2 年度第 1 回 小金井市地下水保全会議
事 務 局	環境部環境政策課環境係
開 催 日 時	平成 2 2 年 7 月 1 3 日 (火) 午後 3 : 30 ~ 5 : 00
開 催 場 所	市役所本庁舎 庁議室
出 席 者	別紙のとおり
傍 聴 の 可 否	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍 聴 者 数	2 名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回の会議録の確認について (資料 1) (2) 小金井市立本町小学校運動場芝生整備事業に伴う揚水施設の設置について (資料 2) (3) ボーリング調査データについて (資料 3) (4) その他 3 次回の地下水保全会議の日程について 4 その他
会 議 結 果	別紙のとおり
発言内容・発言者名 (主な発言要旨等)	別紙のとおり
提 出 資 料	資料は、情報公開コーナー、図書館、議会図書室にある議事録に添付してあります。
そ の 他	

平成22年度第1回 小金井市地下水保全会議

議事録

日 時：平成22年7月13日（火）15：30～17：00

会 場：小金井市役所本庁舎庁議室

■ 出席者

(委員)	小倉 紀雄 会長	山田 啓一 副会長
	風間 ふたば 委員	齊藤 祐磁 委員
(欠席者)	土屋 十囿 委員	
(事務局)	環境部 深澤部長	環境政策課 石原課長
	環境係 町田係長	環境係 立川主任
	環境係 吉崎副主査	環境係 板本
(説明員)	教育委員会学校教育部庶務課	鈴木課長
	教育委員会学校教育部庶務課施設係	若藤係長
(傍聴者)	2名	

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 前回の会議録の確認について（資料1）
 - (2) 小金井市立本町小学校運動場芝生整備事業に伴う揚水施設の設置について（資料2）
 - (3) ボーリング調査データについて（資料3）
 - (4) その他
- 3 次回の地下水保全会議の日程について
- 4 その他

■ 審議経過（議事録）

- 1 開会

小 倉 会 長： ただ今から開会します。
事務局からお願いします。

石 原 課 長： 4月1日付けで人事異動がありましたので報告します。
環境部長に深澤が着任しまして、環境係長に町田が着任しました。
よろしくお願いします。

- 2 議題
 - (1) 前回の会議録の確認について

小倉会長： では議題に入ります。

資料1の会議録の確認ですが、何かありましたら、来週の火曜日までに事務局まで連絡していただくということによろしいですか。

ではよろしく申し上げます。

(2) 小金井市立本町小学校運動場芝生整備事業に伴う揚水施設の設置について

小倉会長： では、資料2について説明をお願いします。

石原課長： 昨年11月27日の地下水保全会議で情報提供させていただいた、本町小学校の芝生化事業の揚水施設の図面がそろいましたので、庶務課の担当のほうから説明させていただきます。

鈴木課長： 庶務課長の鈴木です。

平成18年3月まで環境政策課に在籍していきまして、地下水保全会議の関連で大変お世話になりました。

今回、小金井市立本町小学校運動場芝生整備事業に伴う揚水施設の設置についてということで、資料2を出させていただいています。詳細については担当係長のほうから説明させていただきますのでよろしく申し上げます。

若藤係長： 庶務課施設係長の若藤と申します。よろしく申し上げます

資料2について説明を行った。(説明内容省略)

小倉会長： ありがとうございます。

何か、ご質問等ありましたらお願いします。

山田副会長： これは、他の小中学校も同じようになるのですか。

鈴木課長： 教育委員会では、市立の小中学校全校の芝生化を方針としています。ただ、校庭の全面だったり、トラックの部分に配慮したりといったように、学校によって変わってくると思います。

山田副会長： 雨の降らない時季など、湧水が枯れてくる夏場などは、汲み上げる一方になります。各学校ということではなく、全体的な見通しを立てておいたほうがいいのではないのでしょうか。少し深い井戸になりますが、湧水には関係ありますので、全体が同じようなケースになったときにどうなるのかというのを、何らかの形である程度の試算をして、場合によっては揚水停止ということも考えていますか。

若藤係長： 現在のところは考えていませんが、将来的にそういった状況であれば、一定の条件の中で規制をかけていくということも一つの方法かと考えています。

山田副会長： たとえば、夏の時季に揚水をストップして一度芝が枯れたら、後は大変なのですか。

若藤係長： 散水については、常時芝生の状態を見て散水しなくてはいけないのですが、地下水の揚水でまかなえない部分は、水道水を利用していくという形になります。

小倉会長： これで小金井市では二例目になりますが、東京都の方針でもありますか

ら、地下水保全の面から考えると、今後地下水への影響も考えておく必要があるということですね。

山田 副会長： もしよかったら事務局のほうで、簡単な試算で、トータルでピーク時に何立米になるのかというあたり、単純なものでいいので、この学校にならった面積と面積に換算したものを、環境政策課のほうに提出していただくとありがたいのですが。

石原 課長： 庶務課のほうと調整してお示ししたいと思います。

小倉 会長： 散水すればいずれ浸透することになります、蒸発する分もありますので、必ずしも汲み上げた量だけ還元されるわけではないですね。

山田 副会長： 夏の時季はほとんど蒸発してしまいますね。

小倉 会長： そういう意味で、特に夏場などの需用が大きい時に地下水への影響も大きいですし、今後のこともあるので、試算をしていただいて、規制までいなくても、ガイドラインみたいなものを作ったらいいのではないかといいことですね。

山田 副会長： 再生水を利用するといった考えはないですか。

鈴木 課長： 雨水の貯留水を利用するのもひとつの方法かと考えています。

山田 副会長： ただ、雨水貯留も雨が降らない時には貯まらないので、やはり再生水が水量としては一番安定的だと思います。

小倉 会長： 雨水と、再生水等の利用も考えたうえで、将来的に考えていく必要があるだろうということをお考えいただければということですね。

石原 課長： 雨水の再利用と再生水というのは、違うのですか。

山田 副会長： まったく違います。下水の高度処理水という意味で言いました。

雨水の利用も大事な事だと思いますが、そうすると、相当な量を用意しておかないと、夏のカラカラの時季にはタンクもカラカラになると思います。

小倉 会長： 他には何かありますか。

風間 委員： 以前に水位観測の話があったと思いますが、学校なので水位観測が出来るようにしておくといいのではないのでしょうか。

深澤 部長： そういう形で準備はしていますが、今回は深いので、水位測定が簡単に出来るかどうか検討していきたいと思います。

風間 委員： できれば小学校なので、そういう結果を子どもたちにも見せるということもできればいいと思います。

小倉 会長： そうですね。

深澤 部長： 検討しているところです。

山田 副会長： その時は、80メートルから100メートルの被圧地下水の水位を測るということですね。

深澤 部長： はい。

小倉 会長： そういった環境教育という面でもおもしろいかもしれませんね。

では、学校という事ですので、子どもたちにも地下水を使って水位がどうなっているのかという教育にもつながっていくので、もしできればそう

いうことも考慮していただきたいということでお願いします。

(3) ボーリング調査データについて

小倉 会長： では、次の議題に入ります。

事務局からお願いします。

石原 課長： 資料3の1小金井市桜町1丁目マンション新築工事について説明を行った。(説明内容省略)

小倉 会長： 一件目の杭は14メートルで30本ということで、水位は1月の調査結果ですと8メートル50センチくらいですね。

ご質問等ありますか。

山田 副会長： 杭の位置は書いてありますか。

立川 主任： 杭の図はないのですが、平面図で見てバルコニーなどの所にある四角い図の部分に入っていくということです。

山田 副会長： 14メートルというと、1月の水位が8メートルくらいですから、6メートルくらいかぶりますね。多少気になりますが。

立川 主任： 杭状図では、礫層が13.9メートルですので、少し下で杭が止まるということです。

玉川上水を南に下って、ちょうどこのマンションのあたりから中央線まで下っていくので、高台に建つような感じになります。

山田 副会長： おそらくこの辺は、地下水が東に流れていたり、少しややこしいところですね。

小倉 会長： 崖線からは少し離れたところですね。周辺の地下水の流れには影響が出てくると思いますが、トータルとして崖線への影響としては、少ないところですね。

立川 主任： 東側に流れていきますか。

山田 副会長： そうですね。低いときは東に流れますね。三鷹よりです。

立川 主任： 仙川は潤れているので、あまり影響は無いと思いますが、玉川上水から染み込んだ水がこちらにきて流れるということでしょうか。

山田 副会長： 供給源は玉川上水だけではないと思いますが、もっと国分寺のほうから全体的な東側への流れの継続だと思います。水位が上がると南側へ、崖線に向かっていくあたりだと思いますね。おそらく滄浪泉園に出てくると思います。

1月だと水位が下がり始めたころですが、4メートルくらい水深の下に30本の杭が入っているということなので、そのあたりは認識していたほうがいいですね。

杭の工法みたいなものはあるのですか。

立川 主任： そこまではまだわかりません。

山田 副会長： 太いやつが一番よくないのですね。比較的影響が少ないのは、細くてねじりこみながら広げていくものだと聞いています。

小倉 会長： そうですね。考慮はさせていただいていると思いますが、どんな杭を考え

ているのか確かめていただいて、水質的にも影響を与えないような工法の杭でお願いしたいという意見があったと伝えてください。

崖線から少し離れているので、崖線の湧水に直接影響を及ぼすということはあまりなさそうなので、そういった杭の工法等を環境に配慮した形でお願いしたいということですね。

立川主任： 雨が増えて水位が上がれば、中央線を越えてくるという解釈でいいのでしょうか。

山田副会長： そうですね。低いときは東西の方向ですが、増えれば南北の方向の流れも出てくるということです。

立川主任： わかりました。ありがとうございます。

小倉会長： それでは、2件目の工事について説明をお願いします。

石原課長： 資料3の2東京農工大学小金井団地新総合会館新営工事について説明を行った。(説明内容省略)

小倉会長： 杭の深さが9メートルで、本数が31本ということですね。地下水位は8メートル弱くらいですね。場所は農工大ですね。中央線の南ですが、崖線からは少し離れていますね。

山田副会長： ここは、地下室はどうなっていますか。

立川主任： 体育館のような建物なので、基本的に地下室はありません。杭は31本入るのですが、どこの場所かはわかりません。

石原課長： 地上3階建てで地下はなくて15メートルほどの建物になります。

小倉会長： 地下水の流れはやはり東方向ですか。

山田副会長： ここは、野川公園の方へ南東方向でしょう。

小倉会長： 崖線からは少し離れていますので、近辺は多少影響されるかもしれませんが、野川公園のほうへ行くことは行くでしょう。

山田副会長： このあたりは雨水の浸透は指導されているのですか。

立川主任： はい。下水道課のほうでやっています。

これは、ローム層のところで杭をとめていただけるようですか、全部そうなのかどうかわかりませんが、どうなのでしょう。

小倉会長： ローム層の一番下くらいですね。

立川主任： 工事現場のちょうど真南に、環境市民会議で観測している市の公園の中の井戸がありまして、毎月13メートルくらいのところに水があるということとことです。隣の栗山公園では土木技術センターのほうで測っていると思いますが、おそらく同じくらいの水位だと思います。

小倉会長： 南側に環境市民会議で測っている井戸があるということで、そういう意味では監視ができますね。

山田副会長： そうですね。環境市民会議のかたにはよろしくお願ひしたいと思ひます。

立川主任： ここは、真南におちますか。

山田副会長： 東の方へずれると思ひますが。

小倉会長： 真南の井戸の水位に直接影響があるかどうか、やってみないとわからないですね。

立川主任： データで出てくると思います。

小倉会長： そうですね。

それでは、観測井戸がありますので、監視をしていただくということですね。

風間委員： 前に戻ってすみませんが、先ほどのマンションのところは近くに市立第二小学校がありますが、ここでは水位観測はしているのですか。

石原課長： 第二小学校ではしていません。

風間委員： 水位の観測計も置いていませんか。

立川主任： 置いてあると聞いていますが、学校の中ですのでお願いをしているところです。ただ、50メートルくらい落とさなくてはいけないので、環境市民会議で持っているものは浅井戸のもので20メートルしか入りません。40メートルから60メートルくらいのものを設置させていただいて測ろうと思っています。

山田副会長： 水位はもっと高いのではないですか。

立川主任： 40メートルくらいです。

風間委員： では水面としてはもっと高いですね。こちらの柱状図で7メートルくらいですから。

立川主任： 第二小学校は深井戸なので、100メートルくらいです。

山田副会長： 深井戸でもそんなに低くはないと思いますが。

立川主任： おそらくストレーナーが60メートルとか80メートルくらいだと思います。

山田副会長： 実際はもっと上にあると思います。

深澤部長： ストレーナーが下にあるので、上の水は採れないのではないのでしょうか。

山田副会長： 上の水は採れないでしょう。だからそれは、被圧地下水を測るというスタンスになりますね。ですから環境市民会議が測っているのとは同等にしてはいけません。

データの種類が違うので、測った後の取り扱いは違ってくると思います。

立川主任： 学校の井戸の観測計に関しては、デジタルのもので何とかならないかお願いしています。ただ予算的なものもありますが、子供達にとっても環境教育の一環として、毎日すぐに見られるものがないと思いますので。

山田副会長： 機械を設置するとなると、担当の先生の協力や関心がないと難しいですね。

立川主任： はい。

風間委員： 欲をいえば、ついでに浅井戸も測れるようにしていただければと思いますけど。

小倉会長： そうですね。せっかく芝生化をやるのですから、そういったユニークな環境教育に関連させて予算をとってほしいですね。

立川主任： 深井戸ではなく、芝生の方に浅井戸を作るということでしょうか。

風間委員： そうではなくて、どこでもいいのですが、水位は5メートルから8メートルくらいなので、水位計だけが入るくらいの穴があいているところがあ

ればいいので、ついでに10メートルくらいの穴を掘っていただければということですよ。

山田 副会長： よくやるのは地盤調査の穴を残して使う、ふたをしておいて観測できるようにするというのいいですね。それは可能ですか。もう終わってしまいましたか。

深澤 部長： 担当に確認してみます。

山田 副会長： これからもそういうケースがあると思います。

深澤 部長： そういうことであれば、そういったものも深井戸とは別に付けてもらうということでお願いしていきたいと思います。

小倉 会長： そうですね。せっかく同じ市の公共施設ですから、要望していただければと思います。

山田 副会長： また事前にそういったプロジェクトがあれば、この会議の中でなくてもお知らせいただければ、たとえばこういったことが出きるのではないかと言えますので、相談していただければと思います。

小倉 会長： そうですね。よろしくお願ひしたいと思います。

(4) その他

小倉 会長： では、その他ということで何かありますか。

石原 課長： 小倉先生の講演があるということで、お知らせのチラシをお配りしました。

立川 主任： 報告になります、環境市民会議が手作りの機材を使って湧水を測り始めました。環境市民会議の平成21年度環境保全に関する啓発事業報告書の16ページに載っていて、報告をいただいています。

風間 委員： このデータはどこかに記録されていますか。

立川 主任： データは環境市民会議のホームページにも載っています。

湧水は減ってきていますが、ゲリラ豪雨などの影響が出てくればいいなと思います。また、先ほどのお話のように、中央線の北側の水が流れてきていけばいいと思うのですが。

山田 副会長： そうですね。流れてくればどっと増えますよ。

データの保管ということで、この報告書というのは環境市民会議のボランティアの一部ですか。

石原 課長： 市の補助金を使って作成してまして、市内の環境団体の方を中心に配布をしています。市のほうでも環境市民会議が出来る前から、環境啓発に関する記録というものを保管していますので、それと合わせて毎年保管していくという形になります。

山田 副会長： いわゆる、小金井市の環境というような年間のレポートの中にこれも入るのですね。

石原 課長： こちらは環境市民会議独自の報告書ですので、かなり細かく書いていただいています、小金井市の環境報告書という、市の出版物として出させていただいているものでは、ここまで細かくは載せきれませんが、極力継

続的に毎年積み重ねて載せていこうと思います。

山田 副会長： わかりました。

測っているのは市民ボランティアでも、市に問い合わせたときにはこう
いったものがあるという形にしておいてほしいと思います。

石原 課長： はい、わかりました。

小倉 会長： せっかく測っていただいているのですが、やはり桁の横数字が多すぎま
すね。16ページのグラフでは小数点以下三桁までは出ませんね。上の井
戸の水位はどうでしょう。

立川 主任： ミリ単位で皆さん頑張ってくれています。

小倉 会長： そうですよ。そういう思いは伝わってきますが。

山田 副会長： そうですね。これを言うと怒られてしまいますか。

小倉 会長： ええ、わかりました。

風間 委員： ここに日にちは書いてありませんが、わかるのですか。

立川 主任： 毎月1週目の日曜日というように決めて測っています。

風間 委員： そうですね。これを見るとそれぞれの井戸はほとんど変わっていません
ね。

立川 主任： そうですね。どちらかといえば、立川段丘にある井戸のほうが、多少差
が出ていると思います。

風間 委員： 何番の井戸になりますか。

立川 主任： 20番、21番のあたりが立川段丘になると思います。

山田 副会長： 武蔵野面のほうは最大で3メートルくらいの差がありますが、その年に
よって違ってきますね。

もう少し前からあると思うので、それをグラフにすると良くわかると思
います。

立川 主任： そうですね。今は、民間の井戸がなくなってきていますが、民間の井戸
と、山田先生の井戸と、あとは土木技術センターの井戸を測らせていた
だいています。

山田 副会長： なかなか大変なことですよ。

小倉 会長： そういう意味で、ずっと環境市民会議の方が頑張って継続してやられて
いるというのは、大変けっこうなことだと思います。

そのデータをこうやって記録して公表しているということですから、使
えるデータになるといいと思います。

せっかくですから、できたら日付も入れるといいでしょう。近くのアメ
ダスのデータを調べて、降水量なども記録できればいいと思います。

立川 主任： 環境市民会議の地下水部会のメンバーが、自宅で毎日測っています。そ
れと市役所のデータと府中のデータを全部渡していて、そこで検証してい
ただいています。

小倉 会長： そうですね。わかりました。

立川 主任： 皆さんは野川の流量が気になるようなので、そこでのデータの一つとい
うことで、降雨量のデータをとっていますね。

府中のデータと小金井のデータでは、けっこう違ってきますね。市内でも市役所と貫井北町のデータが違ってきます。

小倉会長： そうですね。降雨量も局地的に違って来るので難しいですね。

いずれにしても、貴重なデータですから、引き続き頑張ってくださいと思います。よろしくお伝えください。

他に何かありますか。

では、山田副会長のほうからお願いします。

山田副会長： 一年間、中座してしまして申し訳ありませんでした。

他の団体や市町村でも湧水の保全などの取り組みがある中で、小金井市は小金井市でこのような会議などの湧水保全の取り組みをしているところで、今小金井市の場合は主に中央線の北と南とか、崖線に近いとか遠いとか、大体のよりどころでやっているわけですが、もう少し進んだ、より具体的な展開がないだろうかと以前にも議論があったと思います。

それで調べましたら、板橋区で湧水保全地域というものを現在までに三か所指定してしまして、より具体的に湧水保全の取り組みをするということを行っているようです。

小金井市でも何か所かの湧水やそれに伴う地域などがありますので、なんらかの形で保全地域の指定の方法を探りながら、その地域でどのような作戦で保全を進めていくかというような、より具体的な方針が取れないだろうかと思うのです。

そのために、板橋区の場合は、大学教授や事務方で年に6、7回の検討会を開いて保全地域の設定のための検討をしているということで、規模は小さいのですが、地下水低下、多少の地盤沈下ということが引き金になっているようです。ただの湧水保全ということではなくて、地下水保全という観点も一つあったようです。

雨水浸透ますなどで、全国的にも注目されている小金井市の湧水保全の取り組みを、さらに具体的に守っていくための色々な調査や考え方、提案というものも一歩踏み込んで出来ないだろうかと思うのです。これは、市のほうでも議論いただいて、どういった内容でやるのか、やる必要があるのかを含めて、考えなくてはいけないと思います。

もうひとつは、環境省が2006年あたりから湧水保全のガイドラインなどをつくって、国として位置づけていて、野川地域についても3か年の実態調査をやりました。つい最近発表があったようですが、それらの事柄も含めて、全体として保全のプログラムを考えたらどうかと思います。

小倉会長： ありがとうございます。

山田副会長： 出来れば、関連の資料を揃えていただいて、委員の皆さんにもみていただき、議論の資料にさせていただければと思います。

深澤部長： はい。板橋区のほうは調べさせていただきたいと思います。

保全地域という考え方ですが、そのあたりは以前からこの地下水保全会議の中でもご議論していただいているなかで、地下水影響工事の範囲を決

めて、中央線南側の範囲を影響工事としてみなして、業者のほうに一定のお願いをしていこうという話になっていると思っています。そのあたりをもう少し狭めていくのかどうかという問題はあると思いますので、地下水保全会議の皆さんと十分議論しながら検討させていただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

小倉会長： 環境省のほうで、すでに新しい湧水保全のガイドラインが出来ていますね。

風間委員： そうですね。湧水をまちおこしに使っている例などもあります。小金井市は古くからやっているの、山田副会長がおっしゃるようにもう少し積極的な案が出てきてもいいのかなと思います。

山田副会長： たとえば、それぞれの個別の調査ではなかなかはっきりしないのですが、浸透ますが本当にどれくらい役立ったのかということについても、科学的なデータを、我々が入ってもいいですし、市のほうでアレンジして、何かそれを調査検討するような企画をつくって起こすというのも必要だと思います。市民レベルの定常的な調査も大事ですが、もう少し因果関係をつめていくようなものの必要性もあると思うのです。

深澤部長： そういったことで別の考えでいけば、流域下水道として合流式になっていますので、負担金にもはね返る問題になります。その辺も考えなくてはいけないかと思っています。

山田副会長： 負担金の問題も、雨天時の合流の問題も含めて、浸透ますがどれくらい役に立っているのか。それだけではなくて、おそらく野川にたくさん流されるものが、相当削減されていると思います。

深澤部長： 流域計画の中でも地下浸透ということが今、うたい始めてきていますので、そのあたりでどのくらい効果が出て、どの程度地下浸透されているのかというデータは拾っていかなくてはいけないと思います。

風間委員： 長い間に雨も含めてその調査をするのであれば、定期的な採水と、測定を継続しなければいけないかと思うのですが、たまたまですが、私達のところ比較的簡単に測れる装置がありますので、現状を再認識するといったような一斉調査みたいなものを計画されてもいいのではないのでしょうか。他の自治体でも、私達もよく言うのですが、現状の把握もしないで色々言っても仕方ないということで、自治体の方に、姿勢で見せるために予算を組んでくださいと言うのですが、なかなかそこが難しいところのようです。しかし、少しはそれも無いと報告書も書けないということになりますね。

山田副会長： そうですね。調査をして何が得られるかというときに、この調査によって色々な事が、またその一部が解明されるというような位置づけが出来れば提案しやすいですね。

小倉会長： 浸透ますの費用対効果はよく言われるところですが、日本一、世界一の設置率を誇っている小金井市ですので、その効果の検証がいずれできればと思いますね。

風間委員： 市民の方々のデータと、そういった専門家のデータがうまくあえば、い

いですね。

深澤部長：平成17年に策定した環境基本計画の中に水収支がありましたが、またそういったものを、この保全会議の中で検討していただいてもいいかと思えます。

風間委員：あの水収支で大体のことはわかったわけですが、あれが本当に正しいのかどうかというところですね。

深澤部長：その裏データが必要ですね。そのあたりも研究していきたいと思えます。

小倉会長：そうですね。ご検討いただいて、資料等集めていただいて、風間先生のほうでも少しご協力いただけるようですので、よろしくお願ひします。

山田副会長：論文について紹介があった。(内容省略)

小倉会長：ありがとうございます。
参考資料にしていだければと思えます。

3 次回の地下水保全会議の日程について

小倉会長：では、次回の日程ということですが、事務局のほうではいかがですか。

石原課長：10月の中旬以降でお願いしたいと思えます。

小倉会長：では、また別途日程調整をお願いできますか。

深澤部長：はい、わかりました。

小倉会長：では、時間も今頃でよろしいですね。
よろしくお願ひします。

4 その他

小倉会長：その他ということで、何かありますか。

石原課長：こちらからは特にありません。

齊藤委員：少し気になっていたのですが、小金井工業高校の建て替え工事で、けっこう深く掘っているなと思ったのですが、滄浪泉園などには特に影響はないのでしょうか。

石原課長：過去にも滄浪泉園は水が止まったことはありませんし、現在も特に変わっていません。

齊藤委員：10メートルくらい掘っていると思うのですが、あの深さで地下室が入るのでしょうか。

風間委員：10メートルというと、水が湧いている状態ですか。

山田副会長：そうですね。

齊藤委員：上から見るとそう見えてなくて、少し不思議な感じがしました。イトーヨーカドーのときは、掘った分少し出ていましたね。

少しひやひやしながら見ましたが、このへんは影響が無い所なのでしょうか。

山田副会長：このあたりは真北になりますから、影響ないことは無いと思えますが、いつ頃のデータでやっているかで違いますね。

深澤部長：確認をしておきます。

小 倉 会 長：　そうですね。
では、他になければ閉会します。